

ご存知ですか?「五月人形」を飾る意義。

五月人形を飾る端午の節句は、家庭で行う小さな祭りです。緑色の毛氈などで室内に神聖な場所をつくりて、赤ちゃんを守ってくれる武者人形や鎧兜を飾り、お供え物をして願い事をします。

「健やかに育ち、将来、立派な人間になるように」と。

五月五日の端午の節句の源流は、古代中国で季節の変わり目に健康を願つて厄祓らいをしていたことがあります。日本でも奈良時代以前には五月五日に薬草を摘み、災いを受けないように祈る風習が生まれました。特にサトイモ科の菖蒲は剣のような葉の形と強い根の香りが邪気を祓うとされ、さらにその「菖蒲」の音が「勝負」または「尚武」に通じることから、武家の台頭とともに「層重要な年中行事となっていました。

江戸時代になると、武家では五月五日に男の子の誕生を祝い、武士の精神的な象徴である鎧兜や幟旗などを飾つて、その子の健やかな成長と家の繁栄を祈りました。やがて民間でもこれをまねて、大きな作り物の兜や武者人形、紙の幟旗などを飾るようになりました。これらの飾り物は当初、天の神様の目印となるように屋外に飾つていましたが、江戸時代中期以降、幟旗以外は小型化したものを屋内に飾るようになりました。

鎧兜は身を護る大切な道具であり、日本伝統の武士道精神を象徴する宝物。また英雄豪傑をかたどった武者人形は男の子の成長を見守ってくれる、その子の守り神のような存在です。そして空を泳ぐ鯉のぼりには、たくましくどんな荒波をも乗り越え、人生の成功を願う気持ちが込められています。だからこそ、一人一人に贈るのがよいでしょう。

五月人形は、生まれてきた男の子に対する、周りの人たちのあたたかな思いをかたちにしたもの。誕生をこころから喜び、健やかな成長と将来の幸せを願う「愛情のかたち」そのものなのです。



日本の伝統を大切に
一般社団法人 日本人形協会
www.ningyo-kyokai.or.jp